

寄贈

八重山群島植物誌

高 嶺 英 言

Flora of Yaeyama-gunto

by

Eigen Takamine

May 1952

琉球林業試験場集報

April 25th 1953, No. 1

Ancel Takushi



7
3

正 誤 表

(註 Pendulum を pendulum と訂正する
場合は Pen……, pen……の如く正誤の
部分のみ記載し以下の綴りは省略せり)

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
2	5	Pen……	pen……	26	18	キズミ	キミズ
3	21	Ps……	pes……	26	22	Cun……	cun……
7	20	Par……	par……	26	24	Pep……	pep……
8	10	Var,	var.	27	4	Ped……	ped……
13	16	uar.	var.	28	8	ウマス……	ウマノス……
14	4	西表	石垣	28	13	Moc……	Hoc……
16	5	Sca……	sca……	28	16	Hit……	Mit……
16	14	Marsiliaceae	Marsiliaceae	29	12	……サクラタヂ	……サクラタヂ
17	1	Cer……	cer……	31	17	can……	cau……
17	1	Nu-natsuara	Nu-natsu-ara	32	9	can……	cau……
17	10	Ser……	ser……	32	19	SBougaini……	Bougainvi……
17	21	Pach……	pach……	33	7	Mesenidr……	Mesembr……
17	23	Spring	Spring	34	1	ノミノツヅリ	ノミノツヅリ
19	16	……ceae	……ceae	35	16	pie……	Pie……
19	20	コヨウザン	コウヨウザン	36	25	……ツヅラフジ	……ツヅラフジ
20	3	Dicotyledoneae	Dicotyledoneae	37	10	ビナンカンカズラ	ビナンカズラ
21	4	Saurua……	Saurura……	37	21	Squ……	spu……
21	9	Jpa……	jpa……	38	5-11	……ニクケイ	……ニツケイ
21	19	Spi……	spi……	38	18	Siebolp	Siebold
22	1	Salicacae	Salicaceae	38	19	……carin	……carini
22	2	Kory……	Koriy……	41	14	Cal……	cal……
22	6	Miri……	Myri……	42	2	Yae……	yae……
23	4	Kōi……	koi……	42	4	……gera	……gea
23	12	Moracade	Moraceae	42	4	Yae……	yae……
24	1	Cus……	cus……	43	1	……botrya	……botrya
25	9	Sep……	sep……	43	15	Lod……	Led……
25	20	Var.	var.	44	1	……イチゴ	……イチゴ
26	2	Con……	con……	45	18	Baub……	Bauh……
26	5	mā-bn	mā-bu	45	22	Cri……	cri……
26	8	Miq……	Miq……	46	6	……riya-mami	……rya-mami
26	10	Set……	set……	46	18	Sia……	sia……
26	12	Pen……	pen……	48	22	ヨナグニ……	ヨナグニ……
26	16	Lob……	lob……	50	9	飼	L飼
26	18	Sca……	sca……	50	14	Pru……	pru……

琉球林業試験場集報第一輯発刊の辞

高嶺英言君と小生とは二十年來の知己である思へば昭和四年頃縣立農林學校の生徒であつた天野鐵夫(旧姓名 金城鐵朗)高嶺英言、平良芳文の三君が相前後して茅屋を訪れ琉球植物標本の鑑定を求められた 當時三君は紅領の美少年であり小生又中學の博物教師を夢見る小學校の若き訓導であつた

小生は沖縄人として京大植物學教室の小泉、大井、北村、田川諸博士を師とする通信教授の道を開いた草分である關係上、三君へ植物名の手ほどきは勿論通信教授用植物標本製作法及び標本發送方法を教へ又三君を大學へ紹介したのであつた

以來孜々として飽くことを知らぬ三君の中、天野君は琉球の天地を狭ましとし北支に遊び今は琉球植物に精通する人物となり、平良君は天才的の技能を銹菌の權威平塚博士に認められて行く行くは理學博士、教授と目せられつゝ鳥取高農の植物學教室で研鑽を積んでをつたが今次大戦で惜しくも南太平洋上の露と消えた、一人高嶺君はこつこつと郷土八重山の植物研究に精進し手まめに採集し整理し二十年の間に積もり積もつて出来上つたのが本書である

高嶺君採集品中琉球新産として諸學者に依り發表された植物は多々あるがその中新種として學界に公表され特に 君の學識が認められその功にむくいる爲に君の名を記念して命名されたものに

Fimbristylis Takamineana Ohwi
チャイロテンツキ

Alpinia Takaminei Masamune
イシガキクマタケラン

がある

當林業試験場は琉球林業の發展を期すべく基礎資料蒐集中はしなくも高嶺君に八重山植物誌を依頼したところ早速快諾せられここに琉球試験場集報第一輯として上梓した次第で實に喜びにたえない

本書は學者 農林業、園藝家の参考となるは勿論、教育者一般人士にも欠くべからざるものと信ずる

広く人々の座右の書として御奨めしてやまない

一九五二年五月十五日

琉球林業試験場

多和田真淳



緒 言

八重山群島には、台湾と共通する植物が比較的多く侵入している。即ち八重山を北限とし他の琉球の諸島には分布しないものが尠くない。

Dipterida conjugata Reinwardt	ヤブレガサウラボシ
Dioscorea Matsudai Hayata	ソメモノイモ
Freycinetia formosana Hemsley	ツルアダン
Pithecolobium lacidum Benthham	アカハダノ
Begonia laciniata Roxburgh	
var. formosana Hayata	マルヤマシユウカイドウ

等は其の一例と言えよう

然して此の現象は、石垣 西表の両島に於て特に顯著である。

尙與那国島に止まつて、以北の島嶼に産しない台湾共通の植物があることも見逃せない現象であらう。

八重山群島には又 従来新種として發表された植物が多く今尙研究を要すべきものが残されている。

同群島の斯かる植物分類地理學上の特異性が見出される迄には、之迄幾多の學者や研究家の採集調査の勞があつたことは言う迄もなく、近年に於ける園原咲也、多和田眞淳兩氏の盡力も特筆すべきであらう。

筆者は同群島のフロラ闡明を目標に、自らの採集調査並に文獻渉獵の結果を整理し、同地の山野を歩く毎に之を基にして、八重山の植物を見直したり或は新事實にぶつかつたりして來た。偶々多和田眞淳氏に「八重山植物誌」の發表を奨められた。未完成のものでもあるし未だ其の時期に迄は至つていないが、一應之を公にし諸賢の検討を仰ぐことも八重山のフロラ研究完成への捷徑だと考えたので、同氏の奨めに應ずることにした。

故に此の意味に於て本書の杜撰の点、宜敷諸賢の叱正を乞ふ次第である。

終りに理學博士大井次三郎氏 同田川基二氏 同北村四郎氏には夫々専門の科に就き、標本檢定或は種々の指導を賜つた、園原咲也氏 多和田眞淳氏は筆者の採集調査に對し種々の教示を、又天野鐵夫氏は拙稿が成る迄に絶えず激動と絶大な援助を夫々賜つた。

特記して以上の諸氏に深甚の謝意を表するものである。

1952年5月20日

城 岳 に て 高 嶺 英 言

凡 例

1. 本書には羊齒植物以上の高等植物を収録した。
1. 産地は島嶼名に止めた、
産地の記入が無いものは概ね各島 普産のものである。
1. 栽培植物は出来るだけ原産地を入れ、其の用途は殊更記入の要を認めなかつたので省略した
1. 日本名は「新仮名遣」に依る。
1. 方言名の次には出来るだけ通用する部落名の頭文字を添えた。

石垣島	石垣	= 石
同	川平	= 川
同	富野	= 富
同	平得	= 平
同	大浜	= 大
同	宮良	= 宮
同	白保	= 白
同	伊原間	= 伊
竹富島		= 竹
黒島		= 黒
波照間島		= 波
西表島		= 西
西表島	古見	= 古
同	船浮	= 船
鳩間島		= 鳩
與那国島		= 與
新城島		= 新

1. 用途名は簡を期するため次の様な略稱を用いた。

食	用	= 食
嗜好	用	= 嗜
織	維料	= 織
染	料	= 染
單	寧料	= 單
製	油原料	= 製油
香	料	= 香
護	諺原料	= 護謨

編物原料	= 編
建築材 下脚材	} = 用材
箸材 印材 其他	
各種材	
屋根葺材料	= 屋根
印肉料	= 印
藥用	= 藥
觀賞用	= 觀
民俗と關係あるもの	= 民俗
垣材料	= 垣
釣竿材料	= 釣竿
とりもち原料	= とりもち

主要参考文献

- | | | | |
|-----|-------------|---------------------------------|-----------|
| 1. | 本田 正次 | 日本植物名彙 | 1939 |
| 2. | 牧野富太郎 | 牧野 日本植物図鑑 | 1942 |
| 3. | 正宗 嚴敬 | 最新台湾植物総目録 | 1936 |
| 4. | 伊藤 武夫 | 台湾植物図説 | 1927 |
| 5. | 天野 鋳夫 | 琉球列島植物誌 | 未刊 |
| 6. | 大井次三郎 | 日本の禾本科植物 植物分類. 地理 | 1941-1942 |
| 7. | 佐々木舜一 | 林業部植葉館目録 台湾総督府中央研究所林業部
報告第9號 | 1930 |
| 8. | 台湾植物同好會 | 台湾野生食用植物図譜 | 1945 |
| 9. | 佐々木舜一 | 台湾民間藥用植物誌 | |
| 10. | 多和田眞淳 | 沖繩藥用植物藥効全 | 1951 |
| 11. | 宮澤 文吾 田中長三郎 | 有用野生植物図説
(増訂第二版) | 1950 |



オキナワスイカズラ.....104
 オキナワスゲ128
 オキナワスズムシソウ99
 オキナワスズメウリ104
 オキナワソケイ.....85
 オキナワソヨゴ.....62
 オキナワダイコン.....41
 オキナワチヨウジダテ77
 オキナワツゲ.....61
 オキナワテイカカズラ.....87
 オキナワテイシヨウソウ 107
 オキナワハイネズ.....19
 オキナワヒサカキ.....71
 オキナワヒメユズリハ58
 オキナワホシクサ.....137
 オキナワホルトカズラ.....83
 オキナワマツ.....19
 オキナワミズタマソウ ...137
 オキナワミチシバ.....120
 オキナワムヨウラン.....151
 オキナワモクレイシ.....63
 オギノツメ.....99
 オシロイバナ科.....32
 オシロイバナ32
 オトギリソウ科.....71
 オトギリマオ.....26
 オトヨモギ107
 オドリコソウ科.....92

オナモミ113
 オニガヤツリ130
 オニクダ129
 オニシユスラン153
 オニタビラコ113
 オニトウゲシバ17
 オニノヒゲ.....133
 オニヒルガオ89
 オニヘゴ4
 オニホシダ7
 オニホラゴケ.....3
 オニヤブソテツ8
 オヒシバ121
 オヒルギ75
 オボンテンカ69
 オモダカ科.....116
 オモダカ116
 オモト142
 オヤブジラミ79
 オランダキジカクシ.....141
 オリズルラン139
 オルドガキ83

カ

カエデ科64
 カガシラ.....130
 カカツガユ.....23
 カキ科83
 カキ83

カキバカンコノキ.....59
 カキバチシヤノキ90
 ガクアサガオ89
 カクラン.....152
 カゴノキ37
 カゴメラン150
 カザンジマ81
 カジノキ23
 カシノキラン150
 カジノハラセンソウ67
 ガジユマル25
 カシヨウアブラスキ ...119
 カズザキコウゾリナ.....108
 カスマグサ53
 カタバミ科53
 カタバミ53
 カタヒバ17
 カツコウアザミ107
 カツモウイノデ7
 カナビキボク27
 カナワラビ13
 カニクサ科15
 カニサボテン73
 カネアダン.....115
 カブ.....40
 カボチャ.....105
 ガマ科.....115
 カマラ.....60

カミヤツデ78
 カヤツリグサ科127
 カラサトウキビ125
 カラジューム135
 カラスキバサンキライ...143
 カラスザンシヨウ55
 カラスムギ.....119
 カラスビシヤク.....135
 カラスノエンドウ53
 カラタチ55
 カラタチバナ82
 カラムシ26
 カルカヤ.....127
 カワカムリダケ118
 カワジシャ97
 カワツルモ.....116
 カワラアヒザ30
 カワラスガナ130
 カワラヨモギ107
 カワリバアサガオ89
 カワリバアマクサシダ12
 カワリバマキエハギ47
 カンオンチク134
 カンガレイ.....133
 カンギク109
 カンキチク29
 カンコノキ59

カンザシワラビ.....16
 カンザブロウノキ84
 カンザンチク118
 カンシノアホラゴケ.....3
 カンゾウ.....139

キ

キアサガオ89
 ギイマ.....81
 キイルンアミガサギリ57
 キイルンカンコノキ59
 キイルンフジバカマ110
 キイルンヤマノイモ.....145
 キイレツチトリモチ28
 キウリ105
 キウリグサ90
 キキヨウ科106
 キキヨウラン科.....140
 キキヨウラン140
 キク科106
 キク109
 キクニガナ109
 キクバイズハハコ.....109
 キクモ.....93
 キコク55
 キジカクシ科141
 キシギシ30
 キジノオシダ科4
 キダチキンバイ.....77

キダチチヨウセンアサガオ94
 キダチトウガラシ94
 キダチニンドウ104
 キダチハマグルマ.....113
 キダチペゴニア.....73
 キチガイナスビ.....94
 キツネアザミ111
 キツネノヒマゴ.....99
 キツネノボタン.....35
 キツネノマゴ科.....98
 キツネノマゴ99
 キヌゲメヒシバ121
 キヌラン.....153
 キノボリシダ8
 キバナイソマツ.....83
 キバナシユスラン.....143
 キバナセキコク149
 キバナノウチワマメ50
 キバナノダンドク147
 キビ124
 キマメ.....46
 キミカゲソウ科141
 キミガヨラン141
 キミズ25
 キヤツサバ60
 キヨウオウ147
 ギヨウギシバ.....120
 キヨウチクトリ科86

Metachlamydeae 後世花被植物亜綱

Diapensiaceae イワウメ科

Shortia rotundifolia Makino シマイワカガミ
石垣 西表

Piraceae イチャクソウ科

Monotropastrum globosum H. Andres
var. pentapetala Honda ギンリョウソウ
石垣 西表 ヌウレイタケ

Rhoboraceae シヤクナグ科

Rhododendron ellipticum Maximowicz セイシカ
石垣 西表 ヤエヤマセイシカ
L 観 7

P. eriocarpus Nakai マルバサツキ
石垣 西表 Tsutsuji Hakaza-pana (川)
L 観 7

R. scabrum G. Don カザンジマ
魚釣島

var. Rawsonii Nakai ケラマツジ
L 観 7

Vaccinium Wrightii A. Gray ギイマ
ヒメシヤシヤンボ

Ardisiaceae ヤブコウジ科

Ardisia crenata Sims トガリバマンリョウ
var. lanceolata (Masamune)
西表 (浦内 ハテルマ森) 與那國